

表紙の紹介

ミニ門松作り

表紙は、お正月に家の床の間や玄関、お店のカウンターなどに飾られる高さ30cmほどのミニ門松を作っている様子を撮った写真。

今泉にある大関剛・忠さんのお宅では、40年以上も前からミニ門松作りをしていて、お正月に向けて出荷するために忙しい日々を過ごしている。

作業小屋の扉を開けた中には10人ほどの人たちが座りながら作業をしていて、初めてバラバラだった竹や松葉がそれぞれの作業を受け持つ人たちの手で、あっという間に門松の形へと仕上がっていく。

「12月10日ごろから10日間で約1万個ほど作って出荷しています。以前は、関東から東北

地方にかけてが主な出荷先でした。最近は東京都内の花屋が多いです」と、忙しい中にも充実した表情で剛さんは話す。

作っていていくうえで、最も気をつけているのはカビの発生だ。門松



れる。

各生産者によって、竹の切り方、縄の形などにそれぞれ特色があるため、自分たちが作ったものは見ればすぐに分かるそうだ。「自分たちの作った門松が、正月に放送しているテレビに映ったときは、本当にうれしくなります」と親子ともども満面の笑みで話してくれた。

大関さんたちが作ったミニ門松(写真上)と作っている皆さん(写真下)

門松とは、お正月を迎えるにあたって、門や玄関の前に飾る松のことです。正月には、この松を依頼として「年神」が最初に降りてくる目印になるのです。昔は、椿や栗などが使われていたそうですが、平安時代ごろからおめでたい木とされた松と、その後に竹が添えられてめでたいものになり、竹と松が飾られるようになります。

門松は、12月13日から28日の間か、30日に飾りますが、29日は「苦」に通じる、31日は「一夜飾り」といって不吉を嫌い、その日には飾らないことになっています。また、取り扱う時期は1月7日で、地方によっては10日、15日のところもあります。

小正月(1月15日)には、どんどん焼きなど、神社などの境内でお正月飾りを焼く行事もあります。門松やしめ縄などの正月用品を燃やし、この火で焼いたもちを食べると無病息災で過ごせるといわれています。また、この火煙とともに年神様が帰ると考えられていきました。

門松あれこれ



発行 土浦市〒300-8686 土浦市下高津一丁目20番35号 ☎029-826-1111

<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/> E-mail:info@city.tsuchiura.lg.jp

編集 市長公室広報広聴課

再生紙を使用しています。

環境に優しい大豆インキを使用しています。

次回「広報つちうら」1月中旬号は、1月15日(木)発行予定です

人口と世帯数(平成20年12月1日現在) 14万3853人(男7万1595人 女7万2258人) 5万5690世帯